

中央学術研究所

原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究

A Study of the Biography of Sakya-muni Based on the Early Buddhist Scriptural Sources

総目次

論文

資料集

現地調査報告など

はじめて来られた方へ ご利用ガイド 著者プロフィール リンク集

▶ 詳細な検索

ENGLISH 日本語

「中央学術研究所紀要」モノグラフ篇 No.6

【資料集1-2】原始仏教聖典に見られる年齢記事一覧 [II] 中島克久

目次

<年齢別記事一覧>

[1] 5歳

[2] 7歳

[3] 8歳

[4] 9歳

[5] 10歳

[6] 12歳

[7] 13歳

[8] 14歳

[9] 15歳

[10] 16歳

[11] 17歳

[12] 18歳

[13] 19歳

[14] 20歳

[15] 24歳

[16] 25歳

[17] 29歳

[18] 30歳

[19] 31歳

[20] 35歳

[21] 36歳

[22] 40歳

[23] 50歳

[24] 70歳

[25] 79歳

[26] 80歳

[27] 90歳

[28] 100歳

[29] 120歳

[30] 126歳

[31] 160歳

[32] dāraka (少年)

[33] kumāra, kumārī (童子、童女)

[34] viññutā (分別のつく〔年齢〕)

[35] māṇava(ka), māṇavikā (青年婆羅門、青年婆羅門女)

[36] dahara (年若い)

[37] paṭhama-vaya (青年期)

[38] taruṇa (若い)

[39] jīṇo vuddho mahallako addhagato vayo anuppatto
(年老い、年長け、高齢にして、晩年である老衰に達している)

[40] buddha, vuddha (老いた)

[41] 童子・童女・童年

[42] 幼・幼少・幼稚・幼年

[43] 年漸長大・年紀漸長・漸漸長大... (長...)

[44] 小年・少年・少女

[45] 年少

[46] 少壮

[47] 成立

[48] 年大

[49] 壮盛・盛壮・盛年

- [50] 老・老邁
- [51] 年邁・朽邁

<項目別記事一覧>

- [1] 就学
- [2] 遊学
- [3] 学業の修了
- [4] 就業
- [5] 結婚
- [6] 男盛り・働き盛り
- [7] 即位関連
- [8] 出家
- [9] 隠棲
- [10] 沙弥・沙弥尼
- [11] 式叉摩那
- [12] 比丘・比丘尼
- [13] ある悟り
- [14] 須陀洹果（預流果）
- [15] 斯陀洹果（一來果）
- [16] 阿那含果（不還果）
- [17] 阿羅漢果（無学果）
- [18] 老熟
- [19] 死没

キーワード：就学 結婚 出家 死没 ライフステージ 標準年齢 平均年齢 原始仏教聖典

本資料集の概要

本資料集は「モノグラフ」第1号に掲載した【資料集 1-1】「原始仏教聖典に見られる年齢記事一覧 [I] —— "Jātaka-aṭṭhakathā" 篇」の続編であって、[I] は「"Jātaka-aṭṭhakathā" 編」と副題を付したとおり、調査対象を "Jātaka-aṭṭhakathā" に限定したものであるが、本篇は「原始仏教聖典」を調査対象としたものである。これには副題を付さなかったことが物語るように、本来はこれが正編であって、前者は続編であるべきものが、順序が逆になった。"Jātaka-aṭṭhakathā" はかなりパターン化が進んでいて整理しやすかったが、原始聖典の方は整理しにくく、そこで自然と "Jātaka-aṭṭhakathā" の方が先になってしまったのである。

ここで「原始仏教聖典」というのは、パーリのニカーヤとヴィナヤおよび漢訳の阿含経と諸律をさすが、その詳細は本モノグラフ第1号に掲げた【論文 1】「『原始仏教聖典資料による釈尊伝の研究』の目的と方法論」中の末尾に掲げた「本研究が主資料とする原始仏教聖典一覧」を参照されたい。ここに示されたものが、本資料集の調査対象としたものである。ただし『根本有部律』の因縁譚には数多くの説話が含まれているが、原則として過去世の物語は本資料から除外されている。

本資料集は3部構成になっている。「年齢別記事一覧」と「項目別記事一覧」は [I] と同様であるが、このほかに「参考記事一覧」が付されている。阿羅漢になるのは年齢に関係はないから、決して「ライフステージ」としての標準があるわけではないが、しかし何らかの参考になりうるものと考えて、このような記事を集めたものである。なおこの部分は、生理年齢別とともに法臘年別にも示し、この他に「人寿を100歳とする資料」なども紹介した。